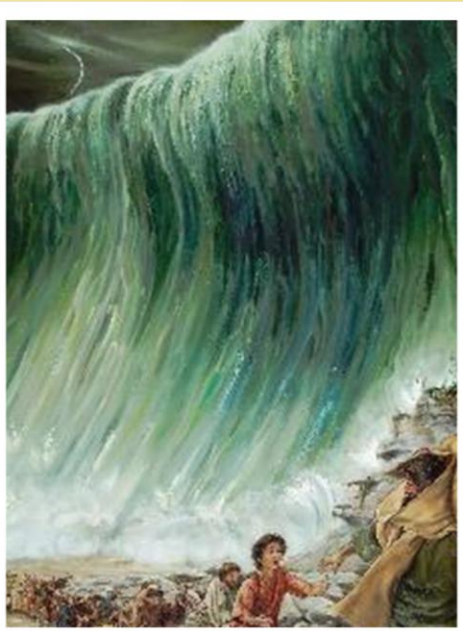
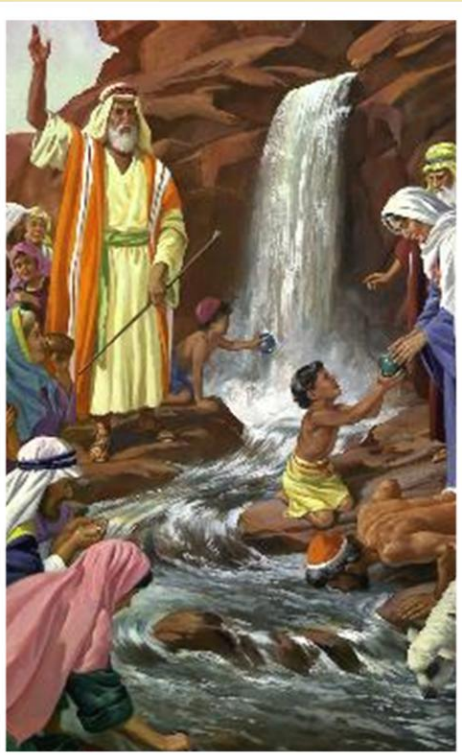
これを聞け！

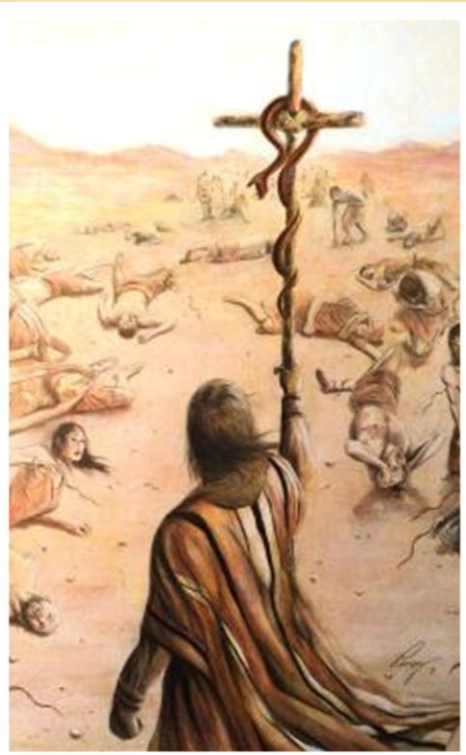


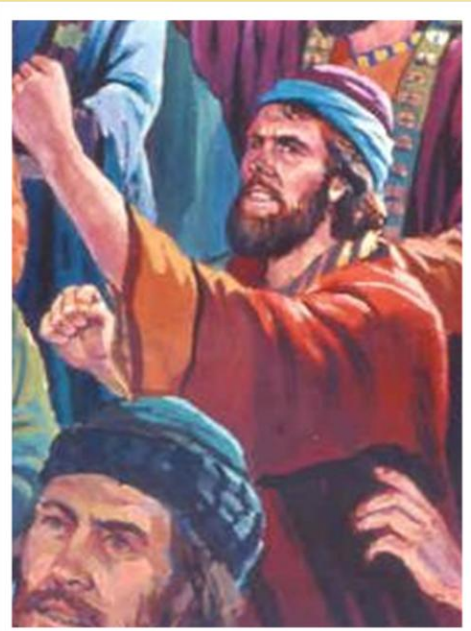
2026年11月14日　第7課





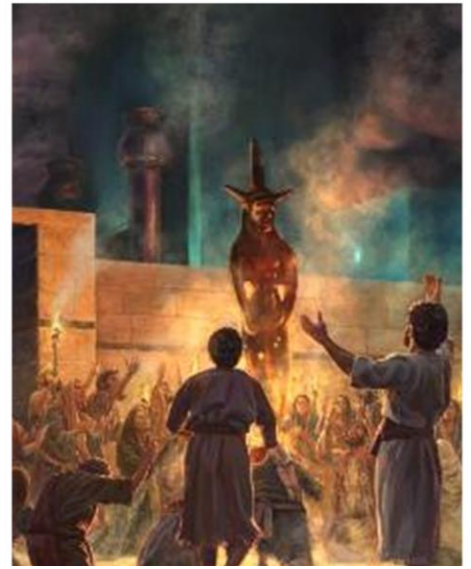




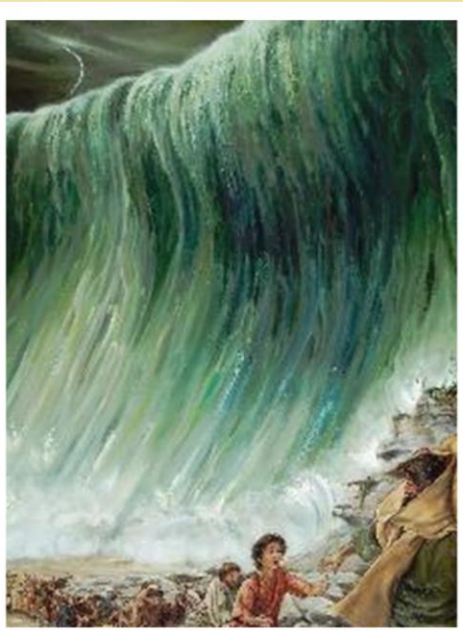




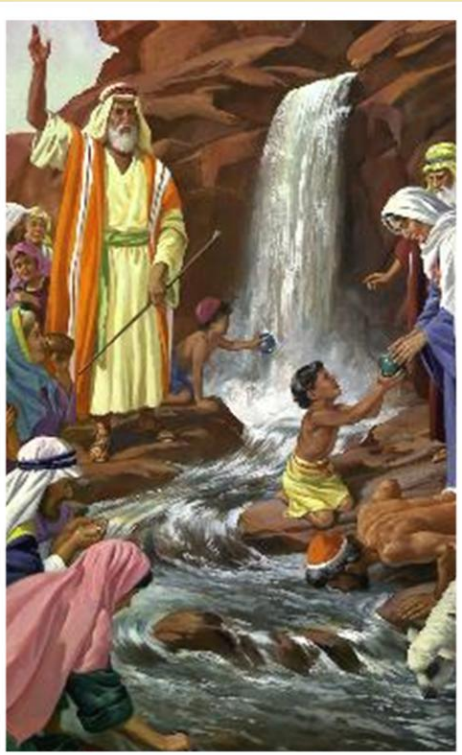
「これらのことは前例として彼らに起こったのです。それが書き伝えられているのは、時の終わりに直面しているわたしたちに警告するためなのです。」（Ⅰコリント10：11　新共同訳）

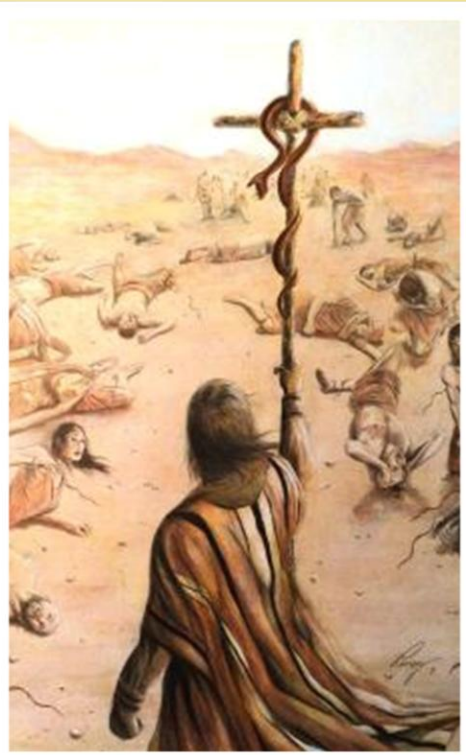


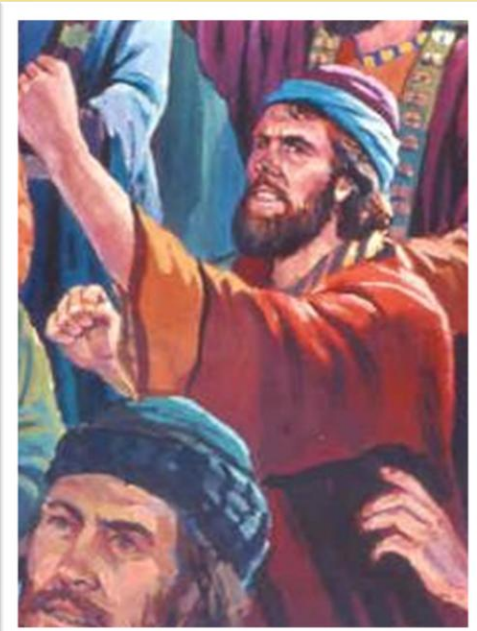
2026年第7課11月14日
これを聞け！





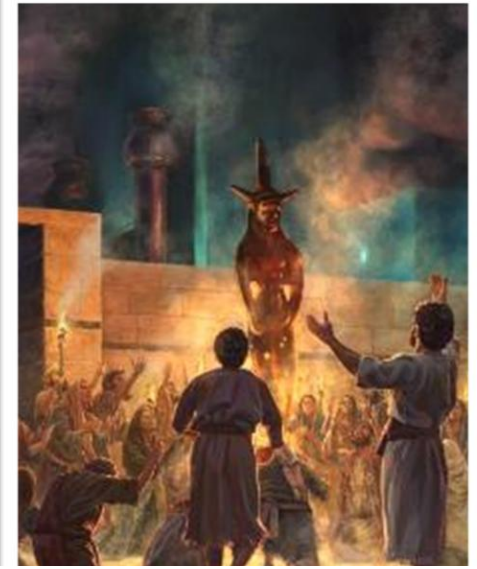




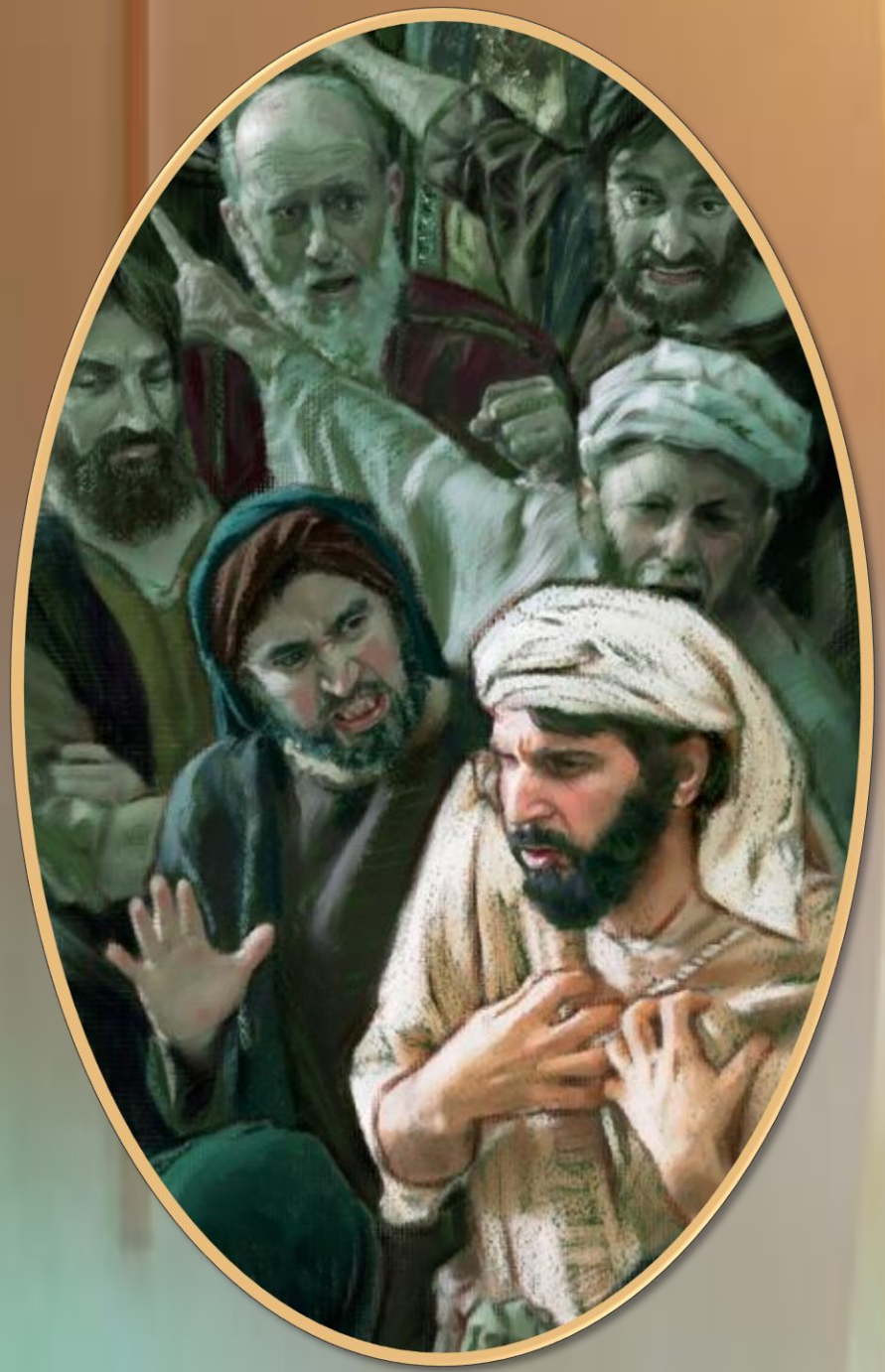




「これらの事が彼らに起こったのは、
他に対する警告としてであって、
それが書かれたのは、世の終りに
臨んでいるわたしたちに対する訓戒の
ためである。（Iコリント10：11口語訳）



2026年第7課11月14日
これを聞け！



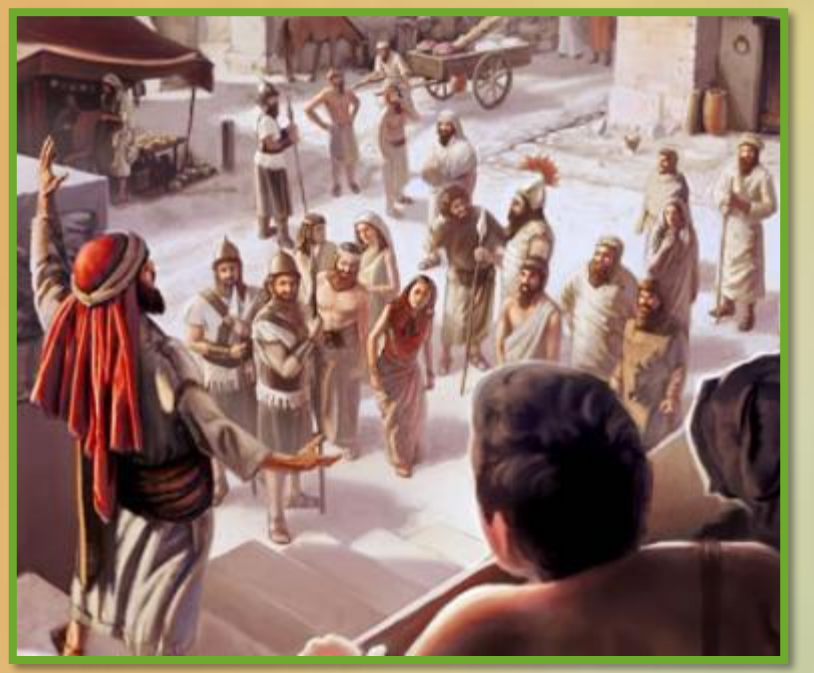
聖書の預言者たちは、最高水準の道徳を掲げ、人々を神へのより深い献身へと導き、罪に対して警告を発し、慰めと力を与えた。

彼らの話に耳を傾け、その教えを受け入れた人々は、大きな恩恵を受けた。

例えば、アサ、ヨシャファト、あるいはアマツヤの場合がそうであった。（歴下 15:1-8, 20:14-23, 25:7-10）

しかし残念ながら、イスラエルの民の間では、それが一般的な傾向ではなかった。預言者たちのメッセージは、しばしば拒絶された。今日でも、神は預言者たちを通して語り続けておられる。

彼らのメッセージに対して、どう反応すればいいでしょうか？



神の使者への怒り

メッセージを破壊する

- 侮辱
- 頑固さ
- 偽善

私達にとっての勧告

神の使者への怒り



イスラエルの人々は一斉にモーセとアロンに対して不平を言い[...]土地を偵察して来た者のうち、ヌンの子ヨシュアとエフネの子カレブは、衣を引き裂き、イスラエルの人々の共同体全体に訴えた。[...]しかし、共同体全体は、彼らを石で打ち殺せと言った。(民数記 14:2-10)



約束の地の入り口で、その地を偵察するために偵察隊が派遣されました。彼らの報告によると、その地は神が言われたとおりに良い土地でした（民13:27）。しかし、そこには落胆させるような言葉も付け加えられていました（民13:28、31）。そこで神はカレブを通して語りかけ、彼らにその地を征服するよう励まされました（民13:30）。



一晩かけて熟考した末、民は決断を下した。それは、これまで彼らを導いてきた神の使者を拒絶するというものだった（民 14:1-4）。ヨシュアとカレブが再び彼らを励ます言葉をかけようとしたとき、民は二人を石打ちにしようと決めた（民 14:6-10）。

他にも多くの使者が拒絶された（歴下 25:15-16；アモ7:10-13）。



拒絶された理由は何だったのでしょうか。彼らが神から伝えられたメッセージは、彼らの期待とは一致しなかった上、彼らは罪深い生活様式を捨てようとはしなかったのでした。



物事が順調に進んでいるとき、
神を信頼するのは簡単でしょう。
では、災いが襲っ てきたとき、
あなたはどれほどよく
神を信頼できるでしょうか。

メッセージを破壊する



侮辱（メッセージを破壊する１）

ユディが三、四欄読み終わるごとに、王は巻物をナイフで切り裂いて暖炉の火にくべ、
ついに、巻物をすべて燃やしてしまった。(エレミヤ 36:23)

エホヤキム王の時代、人々は深刻な罪に陥っていた。神はエレミヤに、預言の言葉を記した巻物を作るよう命じられた。それは、王とその側近たちに警告を与え、彼らが自らの悪しき道を悔い改めるようにするためであった（エレ36：1～3）。

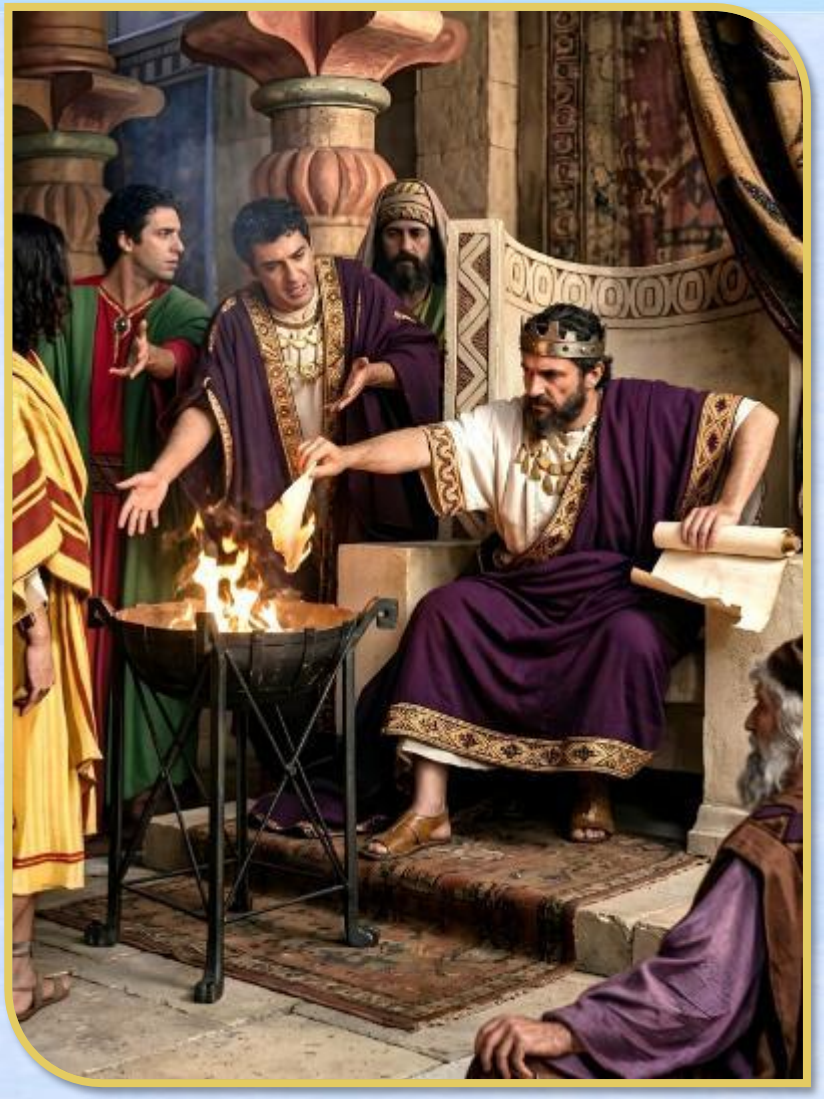
しかしエホヤキムはそのメッセージを軽んじ、数人がそうしないよう懇願したにもかかわらず、それを火の中に投げ込んで焼き捨ててしまった（エレ36：21-25）。

これに対し、エホヤキムに対して厳しい預言が宣告され、破棄されたメッセージは書き直された上で内容が拡充された（エレ36：27-31）。



聖書を読まなければ、自分の好きなように振る舞い、平穏に暮らせるのではないか――そう思うかもしれません。しかし、神の警告を無視するなら、私たちは自らの罪と悪の報いを受けることになるでしょう。





ご自分の民が反抗したにもかかわらず、
神が粘り強く彼らに手を
差し伸べようとされたことから、
神の愛に満ちたご性質について
どのようなことが分かりますか。

頑固さ（メッセージを破壊する2）

彼はまた、神の名にかけて彼に誓わせたネブカドネツァル王に反逆し、強情になってその心をかたくなにし、イスラエルの神、主に立ち帰らなかった。(歴下 36:13)



ユダの最後の王ゼデキヤは、バビロンに忠誠を誓ったものの、その契約を破った。彼は、神がエレミヤを通して与えた警告のメッセージを受け入れることを繰り返し拒んだ（歴下36:12）。



エルサレムがバビロニア軍に包囲されたとき、ゼデキヤはエレミヤを呼び寄せ、神からのメッセージを伝えてくれるよう求めた（エレ38：14）。

そのメッセージは明白であった。バビロンに降伏すれば命は助かる、というものだ（エレ38：17～23）。しかし、ゼデキヤはこのメッセージを拒絶した。彼の頑なさが、エルサレムの最終的な滅亡を招くこととなった（歴下36：13）。



11年もの間、神は彼に対し、もし悔い改めて行いを改めるならば希望のメッセージがある、と伝え続けられた。彼は時折、前向きな反応を見せることもあったが、根本的かつ永続的な改善には到らなかった（エレ34：8～11）。

私たちは神の使者を嘲笑したり、
神の言葉を軽蔑したりしないと言えますか。

偽善

だから、彼らが言うことは、すべて行い、また守りなさい。しかし、彼らの行いは、見倣ってはならない。言うだけで、実行しないからである。(マタイ 23:3)



なぜイエスはパリサイ人たちを偽善者と呼んだのか。

彼らは口ではこう説きながら、実際には別のことをしていたからである（マタ23:3）

彼らは他人に重い負担を課しながら、自分たちはそれを背負おうとはしなかったからである（マタ23:4）

彼らの行いはすべて見せかけに過ぎず、ただ他人に見せるためだけのものであったからである（マタ23:5）

彼らは称賛されることは好んだが、他人を称賛することはなかったからである

（マタ 23:6-7、11-12）

彼らは預言者たちを称賛したものの、その教えに従おうとはしなかったからである

（マタ 23:29-31）

彼らは神に仕えていると主張していたが、神の名において彼らに語りかけた者たちを殺そうとしたからである（マタ23:34）

偽善的なパリサイ人に対するイエスの言葉は、私たちが彼らの手本に従うことを避け、神が与えてくださるメッセージを拒絶するような態度や考えを捨てるようにと語られたものである。

表向きは信仰深く振る舞いながら、
内心は反抗心や貪欲さ、
憎しみに満ちているという、
これと同じような過ちを
繰り返さないようにするには、
原則として、私たちは
どうすればいいでしょうか。

私達にとっての勧告



これらのことは前例として彼らに起こったのです。それが書き伝えられているのは、時の終わりに直面しているわたしたちに警告するためなのです。(1 コリント 10:11)

「過去を記憶できない者は、それを繰り返す運命にある」（ジョージ・サンタヤナ）。

人類が神と経験してきたこと――それが良いものであれ悪いものであれ――を、見過ごしたり軽んじたりしてはならない。

過去は、しばしば未来への序章となる。過去は、現在起きていることや将来起こるであろうことに対する背景を形作ることが多い。

聖書の警告や、神が預言者たちを通して私たちに送ってくださるメッセージに耳を傾けるならば、私たちは過去の世代の過ちを繰すという運命には陥らないのです（Ⅰコリ10:11）。



「ユダとエルサレムの住民よ、聞け。あなたたちの神、主に信頼せよ。そうすればあなたたちは確かに生かされる。またその預言者に信頼せよ。そうすれば勝利を得ることができる。」(歴下20：20)

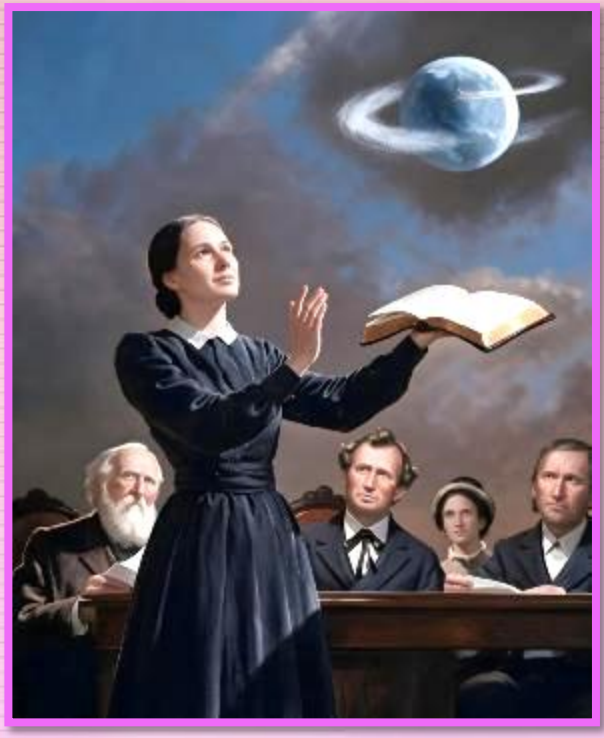


聖書にある反逆や不信仰の記述を読むとき、
自分自身が同じような過ちを
繰り返さないために、
そこからどのような教訓を
導き出すことができますか。

「エレミヤを迫害して投獄するに至った譴責に対する反感の精神は、今日も残っている。多くの者は繰り返して与えられる警告に耳を傾けることを拒み、彼らの虚栄心にへつらい、彼らの悪行を見ても見ぬふりをする偽教師たちの言葉を聞くほうを好むのである。このような人々は、悩みの日に確実な避難所を持たず、天からの助けもないのである。神に選ばれたしもべたちは、屈辱、無関心、誤解などによる試練と苦難に、勇気と忍耐をもって立ち向かわなければならない。彼らは神がせよとお命じになった仕事を忠実に果たしていかなければならない。そして、昔の預言者たちも、人類の救い主や彼の信徒たちも、み言葉のためにののしりと迫害に耐えたことを、常に覚えていなければならない。」

EGホワイト（国と指導者　第35章）

付録：エレン・G・ホワイトのビジョン



エレン・G・ホワイトが人前で受けた啓示には、並外れた現象が伴っていました。彼女は呼吸を止め、目は開いたままで、周囲で何が起きているのか全く気づかないまま体を動かしていました……



彼女を自己催眠（メスマー主義）だと非難する者もいたが、彼女は幻視状態に入るタイミングも、そこから抜け出すタイミングも、自らコントロールすることはできなかった。

エレンが幻視状態に入った際、ジェームズ・ホワイトは、その場にいた人々に対し、彼女を診察するよう呼びかけました。これは、彼女の敵対者たちが抱くかもしれない、彼女の超自然的な起源に関する疑念を払拭し、彼女を信じる人々の信仰を強めるためでした。

彼女を催眠術使いだと非難していた者たちは、彼女が実際に息をしていないのを目の当たりにして驚愕し、その幻影が現れていた場所から恐怖のあまり逃げ出した。